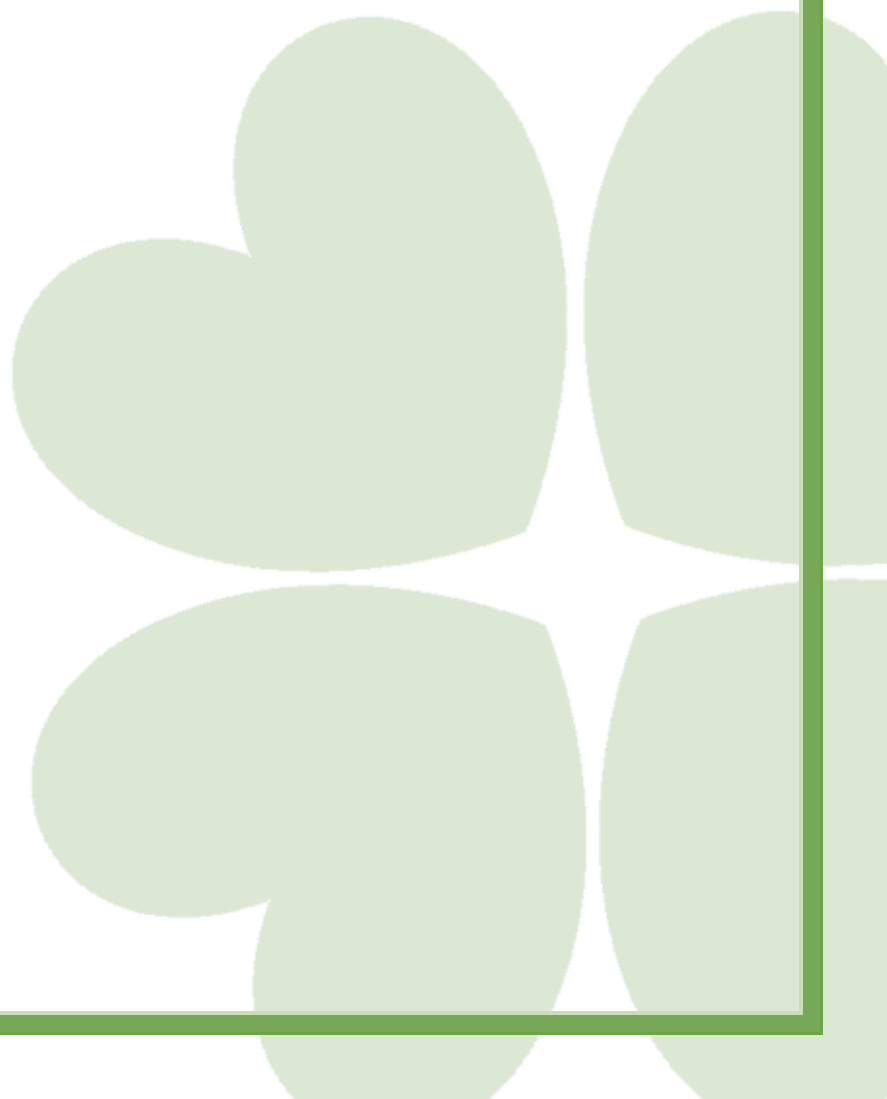


令和 7 年度（2025 年度）

星槎道都大学 通信教育科
社会福祉士養成課程（一般）

各科目の学習のポイント ＜シラバス＞



医学概論			担当教員	宮崎 剛司	
人の体の成り立ちやしくみ、さまざまな疾病について、人の成長過程における老化や日常生活との関係を踏まえて理解を深める。					
授業の目的・ねらい	①人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 ②健康・疾病の捉え方について理解する。 ③人の身体構造と心身機能について理解する。 ④疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。 ⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。	授業全体の内容と概要	①ライフステージにおける心身の変化と健康課題 ②健康及び疾病の捉え方 ③身体構造と心身機能 ④疾病と障害の成り立ち及び回復過程 ⑤公衆衛生		
具体的授業内容	①ライフステージにおける心身の変化と健康課題 ②心身の加齢・老化 ③ライフステージ別の健康課題(乳幼児期、学童期、思春期、青年期、壮年期、前期高齢期、後期高齢期) ④健康の概念(WHO 憲章) ⑤疾病の概念(疾患、疾病、病気の違い) ⑥国際生活機能分類(ICF)(国際生活機能分類(ICF)の概要(コーディング、活用事例を含む)) ⑦人体部位の名称 ⑧基幹系と臓器の役割 ⑨疾病の発生原因(外的要因、内的要因) ⑩病変の成立機序(炎症、変性、虚血、発癌、免疫反応 等) ⑪障害の概要(視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害(DSMを含む)発達障害、認知症、高次脳機能障害 等) ⑫リハビリテーションの概要と範囲(リハビリテーションの定義、目的、対象、方法) ⑬疾病と障害及びその予防・治療・予後・リハビリテーション(悪性腫瘍、生活習慣病、脳血管疾患、心疾患、感染症、神経疾患、先天性疾病、肺疾患、腎・泌尿器疾患、消化器疾患、骨・関節の疾患、血液疾患、目・耳の疾患、精神疾患、高齢者に多い疾患) ⑭公衆衛生の概要(公衆衛生の考え方、健康の社会的決定要因(SDH)) ⑮健康増進と保健医療対策(母子保健対策、成人保健対策(生活習慣病予防対策及びがん対策)、高齢者保健対策、精神保健対策、感染症対策 等)				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座1 医学概論	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2021 年	9784805882313
レポート課題	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。 わが国において、死因が高く日常的に多くみられる疾患を、下記①～③から一つ選択。 選択した()内の疾患二つについて、疾患の概要とその器官の構造・機能とを関連させてレポートしてください。 ①悪性腫瘍(肺がん、大腸がん、胃がん、乳がん) ②脳血管疾患(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血) ③心疾患(心筋梗塞、狭心症、不整脈)				
	レポート作成上の注意点	・疾患別にまとめる ・テキスト以外に活用した文献を明記			
	レポート作成のための参考文献	・黒田研二、鶴岡浩樹【編著】(2021)『新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 16 医学概論』ミネルヴァ書房			
	評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価			
	レポート課題	スクーリング		試験	
	1本	無		有	

心理学と心理的支援			担当教員	吉澤 英里		
人への深い理解に基づくソーシャルワーク実践に向けて、心理学的援助の理論や技法そして関連職種との連携、実践方法など心理学の基礎を習得する。幅広い視点を援助場面で展開できるよう、成長し発達する多面的な人間としての福祉専門職を目指し、そこに向かう姿勢を養う。						
授業の目的・ねらい	① 人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。 ② 人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。 ③ 日常生活と心の健康との関係について理解する。 ④ 心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解できる。		授業全体の内容と概要	①心理学の視点 ②人の心の基本的な仕組みと機能 ③人の心の発達過程 ④日常生活と心の健康 ⑤心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本		
具体的授業内容	①心理学の歴史と対象(心理学の起源、心理学の発展と対象) ②心を探究する方法の発展(生態学的心理学、進化心理学的アプローチ、認知行動科学、行動遺伝学) ③心の生物学的基盤(脳の構造、神経機能、遺伝) ④感情・動機づけ・欲求(感情の仕組み・機能、動機づけ理論) ⑤感覚・知覚(知覚の情報処理過程、感覚モダリティ、アフォーダンス) ⑥学習・行動(馴化・鋭敏化、古典的条件づけ、道具的条件づけ) ⑦認知(記憶・注意、思考、認知バイアス) ⑧個人差(知能、パーソナリティ) ⑨人と環境(対人関係、集団・組織、自己) ⑩生涯発達(発達の定義、ライフステージと発達課題) ⑪心の発達の基盤(認知発達理論、言語発達、アタッチメント理論、道徳性の発達) ⑫心の不適応(不適応の理論、ストレス理論(コーピングを含む)、燃え尽き症候群、トラウマ、依存症) ⑬健康生成論(レジリエンス、首尾一貫感覚(SOC)) ⑭心理アセスメント(心理アセスメントの方法、事例定式化) ⑮心理的支援の基本的技法(ソーシャルワークにおける心理的支援、支持的療法、マイクロカウンセリング、動機づけ面接) ⑯心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要(精神分析、認知行動療法(SST を含む)、応用行動分析、家族療法、ブリーフ・セラピー、対人関係療法) ⑰心理の専門職(公認心理師)					
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
	最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2021 年	9784805882320	
レポート課題	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。					
	同じようなストレスに曝されても、ストレス反応のあらわれ方には個人差があることが知られている。そうした個人差はなぜ／どのように生じるのか。心理学の専門用語を使って説明しなさい。					
	レポート作成上の注意点	テキストには、①認知的評価(心理社会的ストレスモデル)、②性格特性(ハーディネス など)、③ソーシャルサポート、④コーピングが記載されています。①～④からいくつかを選んでまとめましょう。なお、テキスト以外の資料の引用や①～④以外の専門用語の使用も可とします。				
評価方法	レポート作成のための参考文献	特になし				
	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価					
	レポート課題	スクーリング		試験		
	1本	無		有		

社会学と社会システム			担当教員	松下 守邦	
社会福祉実践において、当事者の生活を意識して、現代社会に存在している個人をとらえる視点は重要である。基礎的な社会学用語や概念、現代日本社会の社会的理解を深め、近年の社会情勢や問題を的確に把握して、社会福祉専門職に求められる対応力や視点を学習する。					
授業の目的・ねらい	①現代社会の特性を理解する。 ②生活の多様性について理解する。 ③人と社会の関係について理解する。 ④社会問題とその背景について理解する。	授業全体の 内容と概要	①社会学の視点 ②社会構造と変動 ③市民社会と公共性 ④生活と人生 ⑤自己と他者		
具体的授業内容	①社会学の歴史と対象(社会学の発展と対象) ②社会システム(社会システムの概念、文化・規範、社会意識、産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標) ③組織と集団(社会集団の概念、第一次集団・第二次集団、組織の概念、官僚制、企業、学校、病院、施設(全制的施設)、NPO) ④人口(人口の概念、人口構造、人口動態、人口減少、人口問題、少子高齢化、超高齢社会) ⑤グローバル化(国境を超える移動(人・モノ・資本・情報等)、エスニシティ、移民、多文化、国籍、グローバル・エイジング) ⑥社会変動(社会変動の概念、近代化、産業化、情報化) ⑦地域(地域の概念、コミュニティの概念、コミュニティの再生、ソーシャルキャピタル、都市化と地域社会、過疎化と地域社会、中山間地域の課題、地域社会の集団・組織) ⑧環境(気候変動、環境破壊、持続可能性) ⑨社会的格差(所得、教育、健康) ⑩社会政策と社会問題(福祉国家と福祉社会、社会運動、公共空間) ⑪差別と偏見(ラベリング理論、逸脱、マイノリティ(LGBT 等を含む)、社会的排除、排斥) ⑫災害と復興(避難計画、生活破壊、生活再建、災害時要援護者、ボランティア) ⑬家族とジェンダー(家族の概念、家族の変容、世帯の概念、男女共同参画、ひとり親、子育て、介護、8050 問題、虐待、DV) ⑭健康(心身の障害、慢性疾患、治療と仕事の両立、依存症、自殺) ⑮労働(ワークライフバランス、女性の活躍推進、正規雇用、非正規雇用、失業、過労死) ⑯世代(ライフステージ、ライフコース、世代間交流、個人化、いじめ、ハラスメント、社会的孤立と孤独) ⑰自己と他者(相互作用、間主観性、社会的自我) ⑱社会化(役割取得、アイデンティティ、生涯発達) ⑲相互行為(シンボリック相互作用論、親密性、コミュニケーション(SNS を含む)、ひきこもり)				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座3 社会学と社会システム	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2021 年	9784805882337
レポート課題	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。				
	『家族における「きょうだい関係」と「祖父母・孫関係」』について、下記の文献 A、B を読解したうえで、下記のキーワード 3 つを定義利用して、あなたの考えをまとめてください。 あなたの家族を事例にあげて考察してください。本人(あなたが子ども、親、祖父母など、どの立場からでも結構です)、父母、きょうだい(兄弟姉妹)、祖父母については、年齢、同居別居の概況を、個人情報に配慮して文章作成してください。氏名、住所などの個人情報は記載しないこと。 ・キーワード(社会学の専門用語、概念) 「近代家族」「きょうだい構成 4 つの側面」「祖父母・孫関係における祖父母の役割行動」				
	レポート作成上の注意点	1:レポート作成にあたり、文献 A、文献 B を読解してください。他の文献、インターネット情報を調べる必要はありません。 2:文献 A、B を読解し、社会学専門用語(キーワード 3 つ)の理解が示せるよう、文献 A、B(テキスト、資料①、②)から定義して利用する。レポート作成の参考資料を担当教員個人 HP(note)におきますので確認してください。			

レポート課題	レポート作成のための参考文献	指定文献 A: テキスト 日本ソーシャルワーク教育学校連盟『社会学と社会システム』 中央法規出版 2021 第 4 章第1節-1「家族に関する基本的な概念」 pp.154-159. 第 4 章第1節-3「近年における家族変動」 pp.163-170. 指定文献 B: 家族社会学の文献(2025SOCDOC1) 資料① 保田時男(2019)「きょうだい関係の現状」 資料② 安藤 究(2019)「祖父母・孫関係の現状」 参考資料(学術レポートの書き方)(2025SOCDOC2) レポート参考資料は、担当教員個人 HP (note)を確認してください。 (https://note.com/momatsu188/) WEB サイト<note> SDU 通信課程 受講生を検索します。 → 2025 入学通信 社会福祉士・精神保健福祉士、 「社会学と社会システム」資料は、(2025SOCDOC1) (2025SOCDOC2) の 2 ファイル(PDF)です。		
		レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価		
評価方法	レポート課題	スクーリング	試験	
	1本	無	有	

社会福祉の原理と政策		担当教員	上原 正希
①福祉を学ぶための基盤となる考え方や基礎知識を学ぶ。 ②福祉サービスを「ソーシャル・サービス」、福祉政策を「ソーシャル・ポリシー（社会政策）」と、福祉を幅広く捉えるようになった背景（要因・理由）と、その内容（考え方・概念）を学ぶ。 ③ソーシャル・ポリシー（社会政策）が元来の福祉政策のみならず、直接福祉を目的としない政策（所得政策、雇用政策、住宅政策、教育政策など）を含む意義と目的を理解することができる。 ④福祉の市場化の意義と目的を理解することができる。 ⑤他国の福祉制度の外観を理解し、我が国のソーシャル・ポリシーの方向性を考えることができる。			
授業の目的・ねらい	①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。 ②社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。 ③社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。 ④福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。 ⑤福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。 ⑥福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。 ⑦福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。	授業全体の内容と概要	①社会福祉の原理 ②社会福祉の歴史 ③社会福祉の思想・哲学、理論 ④社会問題と社会構造 ⑤福祉政策の基本的な視点 ⑥福祉政策におけるニーズと資源 ⑦福祉政策の構成要素と過程 ⑧福祉政策の動向と課題 ⑨福祉政策と関連施策 ⑩福祉サービスの供給と利用過程 ⑪福祉政策の国際比較
具体的授業内容	①社会福祉の原理を学ぶ視点（社会福祉の歴史、思想・哲学、理論、社会福祉の原理と実践、社会福祉学の構造と特徴） ②社会福祉の歴史を学ぶ視点（歴史観、政策史、実践史、発達史、時代区分、日本と欧米の社会福祉の比較史の視点） ③日本の社会福祉の歴史的展開（慈善事業、博愛事業、社会事業、社会福祉事業、社会福祉） ④欧米の社会福祉の歴史的展開（救貧法、慈善事業、博愛事業、社会事業、社会保険、福祉国家、福祉社会、国際的潮流） ⑤社会福祉の思想・哲学（社会福祉の思想・哲学の考え方、人間の尊厳、社会正義、平和主義 等） ⑥社会福祉の理論（社会福祉の理論の基本的な考え方、戦後社会福祉の展開と社会福祉理論、社会福祉の理論（政策論、技術論、固有論、統合論、運動論、経営論）、欧米の社会福祉の理論） ⑦社会福祉の論点（公私関係、効率性と公平性、普遍主義と選別主義、自立と依存、自己選択・自己決定とパターナリズム、参加とエンパワメント、ジェンダー、社会的承認） ⑧社会福祉の対象とニーズ（ニーズと需要の概念、社会福祉の対象とニーズ、ニーズの種類と次元、ニーズの理論とその課題） ⑨現代における社会問題（貧困、孤立、失業、要援護性、偏見と差別、社会的排除、ヴァルネラビリティ、ニューリスク、依存症、自殺） ⑩社会問題の構造的背景（低成長経済、グローバル化、少子高齢化、人口減少社会、格差、貧困、社会意識・価値観の変化） ⑪福祉政策の概念・理念（現代の社会問題と福祉政策、福祉政策の概念・理念、福祉政策と社会保障、社会政策、福祉レジームと福祉政策） ⑫ニーズ（種類と内容、把握方法） ⑬資源（種類と内容、把握方法、開発方法） ⑭福祉政策の構成要素（福祉政策の構成要素とその役割・機能、政府、市場（経済市場、準市場、社会市場）、事業者、国民（利用者を含む）、措置制度、多元化する福祉サービス提供方式） ⑮福祉政策の過程（政策決定、実施、評価、福祉政策の方法・手段、福祉政策の政策評価・行政評価、福祉政策と福祉計画） ⑯福祉政策と包括的支援（社会福祉法、地域包括ケアシステム、地域共生社会、多文化共生、持続可能性（SDGs 等）） ⑰関連政策（保健医療政策、教育政策、住宅政策、労働政策、経済政策） ⑱福祉供給部門（公的部門（政府・地方公共団体）、民間部門（営利・非営利）、ボランティア部門、インフォーマル部門、部門間の調整・連携・協働） ⑲福祉供給過程（公私（民）関係、再分配、割当、市場、準市場、福祉行財政、福祉計画、福祉開発）		

	㊹福祉利用過程(スティグマ、情報の非対称性、受給資格とシティズンシップ) ㊺福祉政策の国際比較(国際比較の視点と方法、福祉政策の類型(欧米、東アジア等))				
テキスト	書籍名		著者	出版社	ISBN
	新・社会福祉士シリーズ 4 社会福祉の原理と政策 第2版		福祉臨床シリーズ編集委員会編 福田幸夫責任編集・ 長岩嘉文責任編集	弘文堂	9784335612282
レポート課題	レポート課題①	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。			
		現代における社会問題にはどのようなものがあるかなど、簡潔に説明しなさい。			
		レポート作成上の注意点	教科書を丸写ししないように記載してください。		
		レポート作成のための参考文献	特になし		
	レポート課題②	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。			
		福祉政策と包括的支援について簡潔に説明しなさい。			
		レポート作成上の注意点	教科書を丸写ししないように記載してください。		
		レポート作成のための参考文献	特になし		
評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題		スクーリング	試験	
	2本		無	有	

社会福祉調査の基礎			担当教員	杉本 大輔	
社会福祉調査の具体的方法論(量的調査、質的調査)及びソーシャルワークにおける方法論を学習し、その内容(質問の方法、調査対象の選定、具体的な調査方法、調査データの分析方法)を理解する。					
授業の目的・ねらい	①社会福祉調査の意義と目的について理解する。 ②社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係について理解する。 ③社会福祉調査における倫理や個人情報保護について理解する。 ④量的調査の方法及び調査の結果について適切に理解する。 ⑤質的調査の方法及び調査の結果について適切に理解する。 ⑥ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解する。		授業全体の内容と概要	①社会福祉調査の意義と目的 ②社会福祉調査における倫理と個人情報保護 ③社会福祉調査のデザイン ④量的調査の方法 ⑤質的調査の方法 ⑥ソーシャルワークにおける評価	
具体的授業内容	①社会福祉調査の意義と目的(ソーシャルワーク実践の可視化、ソーシャルワーク実践の理論化、アクション・リサーチ、公的統計と政策決定、ソーシャルワークの価値や倫理と社会福祉調査の関連) ②社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係(古典(ブース、ラウンダリー、タウンゼント等)) ③統計法(統計法の概要) ④社会福祉調査における倫理 ⑤社会福祉調査における個人情報保護(倫理的配慮) ⑥調査における考え方・論理(理論と調査の関係、演繹法と帰納法、因果関係、内的妥当性) ⑦社会福祉調査の目的と対象(目的(探索、記述、説明)、分析単位(個人、家族、グループ、コミュニティ、社会関係、現象等)、サンプリング(母集団、標本、標本抽出、標本の代表性、外的妥当性)) ⑧社会福祉調査でのデータ収集・分析(フィールド調査、文献や既存のデータを用いた調査、実験、評価のための調査) ⑨社会福祉調査のプロセス(問の設定、概念化・操作化、対象と方法の選択、データ収集、分析、考察) ⑩量的調査の概要(多数把握、実態把握、因果関係の推論、一般化、経験の詳細な理解) ⑪量的調査の種類と方法(全数調査と標本調査、Web 調査、横断調査、縦断調査、パネル・スタディ、母集団、標本、標本抽出、二次分析) ⑫質問紙の作成方法と留意点(ワーディングとその他の留意点、パーソナルな質問とインパーソナルな質問、測定(測定の水準、測定の信頼性と妥当性等)、プレコーディングとアフターコーディング、自記式(自記式)、他記式) ⑬質問紙の配布と回収(訪問面接、郵送、留置、集合、電話、インターネット) ⑭量的調査の集計と分析(コーディング、単純集計と記述統計、質的データの関連性(クロス集計)、量的データの関連性(散布図、相関と回帰)、多変量解析) ⑮質的調査の概要(個人の経験の詳細な理解及び他者との相互作用の詳細な理解) ⑯観察法(参与観察法、非参与観察法、統制的観察法) ⑰面接法(構造化面接法、半構造化面接法、自由面接法、フォーカス・グループ・インタビュー、インタビューガイド、逐語録) ⑱質的調査における記録の方法と留意点(観察や面接の記録方法、音声、映像、テキストのデータの扱い方、実践の記録や会議資料等の活用、資料収集における ICT の活用) ⑲質的調査のデータの分析方法(事例研究、グラウンデッドセオリーアプローチ、ナラティブアプローチ、ライフストーリー、ライフヒストリー、エスノグラフィー、アクション・リサーチ) ⑳ソーシャルワークにおける評価の意義(ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける実践の評価、根拠に基づく実践(EBP)とナラティブに基づく実践(NBP)、アカウンタビリティ) ㉑ソーシャルワークにおける評価対象(実践、プログラム、政策、構造(ストラクチャー)、過程(プロセス)、結果(アウトカム)、影響(インパクト)) ㉒ソーシャルワークにおける評価方法(シングル・システム・デザイン、実験計画法、質的な評価法)				
	テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年
	最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座5 社会福祉調査の基礎	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2021 年	9784805882351
レポート課題	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。 量的調査における調査法の配布と回収の方法を、その長所・短所と合わせて記述したうえで、適切な配布と回収の方法を選択するための要点をレポートすること。				
	レポート作成上の注意点	具体的かつ詳細な記述を心掛けること			
	レポート作成のための参考文献	特になし			
評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング		試験	
	1本	無		有	

ソーシャルワークの基盤と専門職		担当教員	櫻井 美帆子		
ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士になるための入り口の学びである。修了時の達成目標は、以下のとおり。					
①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解することができる。					
②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解することができる。					
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解することができる。					
授業の目的・ねらい	①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。		授業全体の内容と概要	①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ ②ソーシャルワークの概念 ③ソーシャルワークの基盤となる考え方 ④ソーシャルワークの形成過程 ⑤ソーシャルワークの倫理	
具体的授業内容	①社会福祉士及び介護福祉士法(定義、義務、法制度成立の背景、法制度見直しの背景) ②精神保健福祉士法(定義、義務、法制度成立の背景、法制度見直しの背景) ③社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性 ④ソーシャルワークの定義(ソーシャルワーク専門職のグローバル定義) ⑤ソーシャルワークの原理(社会正義、人権尊重、集団的責任、多様性の尊重) ⑥ソーシャルワークの理念(当事者主権、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション) ⑦ソーシャルワークの形成過程(慈善組織協会、セツルメント運動、医学モデルから生活モデルへ、ソーシャルワークの統合化) ⑧専門職倫理の概念 ⑨倫理綱領(ソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領、精神保健福祉士の倫理綱領) ⑩倫理的ジレンマ				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2021 年	9784805882412
レポート課題	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。				
	「ソーシャルワーク専門職の根拠法及び倫理綱領からみるソーシャルワークの理念」について論じなさい。				
	レポート作成上の注意点	課題に従い、自身の考えも記述すること。			
	レポート作成のための参考文献	特になし			
評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング		試験	
	1本	無		有	

ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)			担当教員		上原 正希	
ソーシャルワーク専門職である社会福祉士になるための入り口の学びである。修了時の達成目標は、以下のとおり。						
①社会福祉士の職域と求められる役割について理解することができる。						
②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解することができる。						
③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解することができる。						
④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解することができる。						
授業の目的・ねらい	①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。 ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。 ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。			授業全体の内容と概要	①ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 ②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク ③総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容	
具体的授業内容	①ソーシャルワーク専門職の概念と範囲 ②社会福祉士の職域(行政関係、福祉関係(高齢者領域、障害者領域、児童・母子領域、生活困窮者自立支援・生活保護領域等)、医療関係、教育関係、司法関係、独立型事務所等、社会福祉士の職域拡大) ③福祉行政等における専門職(福祉事務所の現業員、査察指導員、社会福祉主事、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司等) ④民間の施設・組織における専門職(施設長、生活相談員、社会福祉協議会の職員、地域包括支援センターの職員、スクールソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカー等) ⑤諸外国の動向(欧米諸国の動向、その他諸外国における動向) ⑥ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象(ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味、ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象) ⑦ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(ミクロ・メゾ・マクロレベルへの介入、ミクロ・メゾ・マクロレベルの連関性、ミクロ・メゾ・マクロレベルの支援の実際) ⑧ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容(多機関による包括的支援体制、フォーマル・インフォーマルな社会資源との協働体制、ソーシャルサポートネットワーキング) ⑨ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容(多職種連携及びチームアプローチの意義、機関・団体間の合意形成と相互関係、利用者、家族の参画)					
テキスト	書籍名		著者	出版社	出版年	ISBN
	ソーシャルワークの基盤と専門職[社福専門]		福祉臨床シリーズ編集委員会	弘文堂	2023 年	9784335612121
レポート課題	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。					
	ソーシャルワークのミクロ・メゾ・マクロの視点とは、どのような視点で、なぜ支援で必要な視点か論じなさい。					
	レポート作成上の注意点		課題に従い、教科書をまとめるだけでなく、自身の考えも記載すること。			
	レポート作成のための参考文献		特になし			
評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価					
	レポート課題		スクーリング		試験	
	1本		無		有	

ソーシャルワークの理論と方法		担当教員	櫻井 美帆子
ソーシャルワーク実践のうち、①人と環境との交互作用に関する理論、②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、③ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ、④ソーシャルワークの展開過程、⑤ケアマネジメント、⑥グループワーク、⑦セルフヘルプグループ、⑧コミュニティワーク、⑨スーパービジョン、⑩コンサルテーションの知識と技術を習得する。			
授業の目的・ねらい	①人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 ②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 ③ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 ④コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 ⑤ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。	授業全体の内容と概要	①人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク ②ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ③ソーシャルワークの過程 ④ソーシャルワークの記録 ⑤ケアマネジメント ⑥集団を活用した支援 ⑦コミュニティワーク ⑧スーパービジョンとコンサルテーション
具体的授業内容	①システム理論(一般システム理論、サイバネティックス、自己組織性) ②生態学理論 ③バイオ・サイコ・ソーシャルモデル ④ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク ⑤ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ(医学モデル、生活モデル、ストレングスモデル、心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、課題中心アプローチ、危機介入アプローチ、行動変容アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、解決志向アプローチ) ⑥ケースの発見(アウトリーチ、スクリーニング) ⑦インテーク(インテークの意義、目的、方法、留意点、契約) ⑧アセスメント(アセスメントの意義、目的、方法、留意点) ⑨プランニング(プランニングの意義、目的、方法、留意点、効果と限界の予測、支援方針・内容の説明・同意) ⑩支援の実施(支援の意義、目的、方法、留意点) ⑪モニタリング(モニタリングの意義、目的、方法、留意点、効果測定) ⑫支援の終結と事後評価(支援の終結と事後評価の目的、方法、留意点) ⑬アフターケア(アフターケアの目的、方法、留意点) ⑭記録の意義と目的(ソーシャルワークの質の向上、支援の継続性、一貫性、機関の運営管理、教育、研究、アカウンタビリティ) ⑮記録の方法と実際(記録の文体(叙述体、要約体、説明体等)、項目式(フェースシート等)、図表式(ジェノグラム、エコマップ等)) ⑯ケアマネジメントの原則(ケアマネジメントの歴史、適用と対象) ⑰ケアマネジメントの意義と方法(ケアマネジメントの意義、ケアマネジメントのプロセス、ケアマネジメントのモデル) ⑱グループワークの意義と目的(グループダイナミクス) ⑲グループワークの原則(個別化の原則、受容の原則、参加の原則、体験の原則、葛藤解決の原則、制限の原則、継続評価の原則) ⑳グループワークの展開過程(準備期、開始期、作業期、終結期) ㉑セルフヘルプグループ(共感性、分かち合い、ヘルパーセラピー原則、体験的知識、役割モデルの習得、援助者の役割) ㉒コミュニティワークの意義と目的(ソーシャルインクルージョン、住民参加) ㉓コミュニティワークの展開(地域アセスメント、地域課題の発見・認識、実施計画とモニタリング、組織化、社会資源の開発、評価と実施計画の更新) ㉔スーパービジョンの意義、目的、方法(スーパービジョンの定義、スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係、スーパービジョンの機能、スーパービジョンの形態と方法) ㉕コンサルテーションの意義、目的、方法(コンサルテーションの定義、コンサルタントとコンサルティーの関係、コンサルテーションの方法)		

テキスト	書籍名		著者	出版社	出版年	ISBN
	最新・はじめて学ぶ社会福祉 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（共通）		日本ソーシャルワーク教育学 校連盟【編】	ミネルヴァ 書房	2023 年	9784623095209
レポート課題	レポート課題①	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。				
		ソーシャルワークの展開過程と「プランニング」における支援目標（目的）の設定およびプランニングのポイントについて説明しなさい。				
		レポート作成上の注意点	課題に従い、自身の考えも記述すること。			
		レポート作成のための参考文献	・相澤譲治【監修】（2021）『新版 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ〔基礎編〕』みらい			
	レポート課題②	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。				
		コミュニティワークの展開過程と地域アセスメントの内容と方法について説明しなさい。				
		レポート作成上の注意点	特になし			
		レポート作成のための参考文献	・相澤譲治【監修】（2021）『新版 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ〔基礎編〕』みらい			
評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価					
	レポート課題		スクーリング		試験	
	2本		無		有	

ソーシャルワークの理論と方法(専門)			担当教員	大島 康雄		
ソーシャルワーカーとして複雑化・多様化する問題に、効果的かつ効率的に対応するための知識と技術について学ぶ。						
授業の目的・ねらい	①ジェネラリストとしてのソーシャルワークの必要性を理解する。 ②クライアントとの援助関係の形成について理解する。 ③ソーシャルワークの方法について理解する。 ④事例研究の意義や方法を理解する。 ⑤ソーシャルワークに関連する技法を理解する。 ⑥ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実践を理解する。		授業全体の内容と概要	①援助の対象と援助関係 ②ネットワークの形成 ③社会資源の活用・調整・開発 ④ソーシャルワークの事例研究 ⑤ソーシャルワークに関連する技法		
具体的授業内容	①総合的かつ包括的な支援の考え方(多様化、複雑化した生活課題への対応、今日的な地域福祉課題への対応、分野、領域を横断する支援) ②家族支援の実践(家族の概念、家族が抱える複合的な生活課題、家族支援の目的、方法、留意点) ③地域支援の実践(コミュニティワークの概念、地域が抱える課題、多機関協働、地域住民との協働、地域アセスメント) ④非常時や災害時支援の実践(非常時や災害時の生活課題、非常時や災害時における支援の目的、方法、留意点) ⑤援助関係の意義と概念(ソーシャルワーカーとクライアントシステムの関係) ⑥援助関係の形成方法 ⑦アウトリーチ(アウトリーチの意義、目的、方法、留意点、アウトリーチを必要とする対象、ニーズの掘り起こし) ⑧ネットワーキング(ネットワーキングの意義、目的、方法、留意点、ネットワーキングの構成) ⑨社会資源(社会資源の活用・調整・開発・転の化意義、目的、方法、留意点、) ⑩ソーシャルアクション(ソーシャルアクションの意義、目的、方法、留意点、社会福祉の機能) ⑪カンファレンス(会議の意義、目的、運営と展開、留意点) ⑫事例分析、研究(事例分析、研究の意義、目的、方法、留意点) ⑬ソーシャルワークに関連する技法(ネゴシエーション、コンフリクトレゾーション、ソーシャルマーケティングの要とソーシャルワーク実践への活用)(ファシリテーションとプレゼンテーションの意義、目的、方法、留意点)					
テキスト	書籍名		著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]		日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2021 年	9784805882498
レポート課題	レポート課題①	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。 ジェネラリストソーシャルワークの実践における社会資源の開発について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。				
		レポート作成上の注意点		特になし		
		レポート作成のための参考文献		特になし		
	レポート課題②	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。 ①・②いずれか一つを選択し、1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。 ①重層的に展開されるネットワーキングにおけるソーシャルワーカーの役割 ②ソーシャルワークの関連技法の活用場面におけるソーシャルワーカーの役割				
		レポート作成上の注意点		特になし		
		レポート作成のための参考文献		特になし		
評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価					
	レポート課題		スクーリング		試験	
	2本		無		有	

地域福祉と包括的支援体制		担当教員	畠山 明子
昨今の地域福祉は、その地域の課題を把握して解決するにあたり、地域の多様な主体が参画・協働し、誰もが排除されない福祉コミュニティを構築していくことを実践的・政策的に推進していく方策として捉えられる。本講義は、地域の実情を踏まえ、多職種協働による課題解決の要として働きかけを行うソーシャルワーカーに求められる地域福祉活動・理論・政策を学び、その役割を果たしていく力量を習得することを目的とする。			
授業の目的・ねらい	①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 ②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 ③地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。 ④地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 ⑤包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。 ⑥地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。	授業全体の内容と概要	①地域福祉の基本的な考え方 ②福祉行財政システム ③福祉計画の意義と種類、策定と運用 ④地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題 ⑤地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 ⑥地域共生の実現に向けた多機関協働 ⑦災害時における総合的かつ包括的な支援体制 ⑧地域福祉と包括的支援体制の課題と展望
具体的授業内容	①地域福祉の概念と理論(地域福祉の概念、地域福祉の構造と機能、福祉コミュニティ論、在宅福祉サービス論、ボランティア・市民活動論、共生社会) ②地域福祉の歴史(セツルメント、COS、社会事業、社会福祉協議会、民生委員、児童委員、共同募金、在宅福祉、施設の社会化、地方分権、社会福祉基礎構造改革、地域自立生活、地域包括ケア、地域共生社会) ③地域福祉の動向(コミュニティソーシャルワーク、コミュニティサービス、地域再生、ケアリングコミュニティ) ④地域福祉の推進主体(地方自治体、NPO、市民活動組織、中間支援組織、町内会、自治会等地縁組織、民生委員、児童委員、主任児童委員、保護司、当事者団体、社会福祉協議会、共同募金、企業) ⑤地域福祉の主体と形成(当事者、代弁者、ボランティア、市民活動、住民自治、住民主体、参加と協働、エンパワメント、アドボカシー、福祉教育) ⑥国の役割(法定受託事務と自治事務) ⑦都道府県の役割(福祉行政の広域的調整、事業者の指導監督) ⑧市町村の役割(サービスの運営主体、条例、社会福祉審議会) ⑨国と地方の関係(地方分権、地方自治、地域主権、地方創生) ⑩福祉行政の組織及び専門職の役割(福祉事務所、児童相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター、婦人相談所、地域包括支援センター 等、福祉事務所の現業員・査察指導員、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司、精神保健福祉相談員 等) ⑪福祉における財源(国の財源、地方の財源、保険料財源、民間の財源) ⑫福祉計画の意義・目的と展開(福祉行財政と福祉計画の関係、福祉計画の歴史、福祉計画の種類(地域福祉計画、老人福祉計画、介護保険事業計画、障害福祉計画、子ども・子育て支援事業計画、民間の福祉計画等)) ⑬市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容(地域福祉と計画行政の関係、市町村地域福祉計画及び都道府県地域福祉支援計画の定義、機能、地域福祉活動計画との関係) ⑭福祉計画の策定過程と方法(課題把握・分析、協議と合意形成) ⑮福祉計画の実施と評価(モニタリング、サービス評価、プログラム評価) ⑯地域社会の概念と理論(地域社会の概念、地域社会の理論) ⑰地域社会の変化(世帯数、世帯構成、過疎化、都市化、地域間格差、外国人住民の増加) ⑱多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ(ひきこもり、ニート、8050 問題、ダブルケア、依存症、多文化共生、自殺、災害等) ⑲地域福祉と社会的孤立(社会的孤立、社会的排除、セルフネグレクト) ⑳包括的支援体制(包括的支援体制の考え方、包括的支援体制の展開) ㉑地域包括ケアシステム(地域包括ケアシステムの考え方、地域包括ケアシステムの展開、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの展開、子育て世代包括支援センター)		

具体的授業内容	②生活困窮者自立支援の考え方(生活困窮者自立支援制度と理念、自立相談支援機関による支援過程と方法、実際、伴走型の支援と対象者横断的な包括的相談支援、個人および世帯の支援、居住支援、就労支援、家計支援、子どもの学習、生活支援)				
	③地域共生社会の実現に向けた各種施策(多機関協働による包括的支援体制、住民に身近な圏域における相談支援体制)				
	④多機関協働を促進する仕組み(総合相談、各種相談機関の連携、協議体、地域ケア会議、地域包括支援センター運営協議会、要保護児童対策地域協議会、障害者自立支援協議会)				
	⑤多職種連携(保健・医療・福祉に関わる多職種連携、生活支援全般に関わるネットワーク、多職種連携等における個人情報保護)				
	⑥福祉以外の分野との機関協働の実際(社会的企業、農福連携、観光、商工労働等との連携、地方創生)				
	⑦非常時や災害時における法制度(災害対策基本法、災害救助法、各自治体等の避難計画)				
	⑧非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援(災害時要援護者支援、BCP(事業継続計画)、福祉避難所運営、災害ボランティア)				
	⑨地域福祉ガバナンス(ガバナンスの考え方、多様化・複雑化した課題と多機関協働の必要性、社会福祉法における包括的な支援体制づくり、住民の参加と協働、住民自治、プラットフォームの形成と運営)				
	⑩地域共生社会の構築(地域共生社会、地域力の強化、包括的支援体制)				
	テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制		日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2021 年	9784805882368
レポート課題	レポート課題①	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。			
		①社会福祉法に基づく包括的支援体制がつくられてきた政策的背景と②包括的支援体制を推進するソーシャルワーカーに求められる役割について説明しなさい。			
		レポート作成上の注意点	特になし		
		レポート作成のための参考文献	『社会福祉学習双書』編集委員会(2025)『社会福祉学習双書 2025 第 8 巻 地域福祉と包括的支援体制』社会福祉法人全国社会福祉協議会		
	レポート課題②	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。			
		「地域福祉の推進」に着目しながら 2000 年以降の社会福祉法における市町村の位置づけについてまとめた上で、地域福祉を推進する上で市町村に求められる役割についてあなたの考えを述べてください。			
		レポート作成上の注意点	特になし		
		レポート作成のための参考文献	『社会福祉学習双書』編集委員会(2025)『社会福祉学習双書 2025 第 8 巻 地域福祉と包括的支援体制』社会福祉法人全国社会福祉協議会		
評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング	試験		
	2本	無	有		

福祉サービスの組織と経営			担当教員	大島 康雄	
ソーシャルワークには、組織の運営管理と言われるソーシャルアドミニストレーションという援助技術があります。社会福祉制度は、対象者を要援護者と限定しているため継続的にサービスを提供できる体制が求められます。本授業はその必要性や具体的な組織論、リーダーシップ論、運営理論などを学ぶ科目です。ビジネス的な知識も獲得できる教科となっています。					
授業の目的・ねらい	①ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要について理解する。 ②社会福祉士に求められる福祉サービスの組織と沿革、経営の視点と方法を理解する。 ③福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論、労働者の権利等について理解する。 ④福祉サービスに求められる福祉人材マネジメントについて理解する。		授業全体の内容と概要	①福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割 ②福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論 ③福祉サービス提供組織の経営と実際 ④福祉人材のマネジメント	
具体的授業内容	①福祉サービスを提供する組織（社会福祉施設の現状や推移、各種法人の特性、非営利法人、営利法人、社会福祉法人、NPO 法人、一般社団法人、株式会社、福祉サービスと連携するその他の法人、法人格を有しない団体（ボランティア団体）等） ②福祉サービスの沿革と概況（福祉サービスの歴史、社会福祉基礎構造改革、社会福祉法人制度改革、公益法人制度改革） ③組織間連携と促進（公益的活動の推進、多機関協働、地域連携、地域マネジメント） ④組織運営に関する基礎理論（組織運営の基礎、組織における意思決定、問題解決の思考と手順、モチベーションと組織の活性化） ⑤集団の力学に関する基礎理論（チームアプローチと集団力学、チームの機能と構成） ⑥リーダーシップに関する基礎理論（リーダーシップ、フォロワーシップ、リーダーの機能と役割） ⑦経営体制（理事会、評議会等の役割、経営戦略、事業計画、マーケティング） ⑧福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス（社会的ルールの遵守、説明責任の遂行、業務管理体制、内部管理体制の整備、権限委譲と責任のルール化） ⑨適切な福祉サービスの管理（品質マネジメントシステム、PDCA と SDCA 管理サイクル、リスクマネジメント体制、権利擁護制度と苦情解決体制、福祉サービスの質と評価） ⑩情報管理（個人情報保護法、公益情報保護法、情報公開、パブリックリレーションズ） ⑪会計管理と財務管理（財務諸表の理解、財務規律の強化、自主財源、寄付金、各種制度に基づく報酬、資金調達、ファンドレイジング、資金運用、利益管理） ⑫福祉人材の育成（OJT、OFF-JT、SDS、職能別研修と階層別研修、スーパービジョン体制、キャリアパス） ⑬福祉人材マネジメント（目標管理制度、人事評価システム、報酬システム） ⑭働きやすい労働環境の整備（労働三法及び労働関係法令、育児休業、介護休業 等、メンタルヘルス対策、ハラスメント対策）				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 社会福祉士養成講座1 福祉サービスの組織と経営	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2021 年	9784805882443
レポート課題	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。 福祉サービスの組織と運営に関わる基礎理論として、モチベーション、集団力学、リーダーシップについて述べなさい。				
	レポート作成上の注意点	具体的な理論を整理しながら記載すること。			
	レポート作成のための参考文献	特になし			
評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング		試験	
	1本	無		有	

社会保障			担当教員	上原 正希		
社会保障の生成と展開過程を踏まえ社会保障の理念と意義を理解し、少子高齢社会において社会保障が直面している課題について対応策を考える。併せてわが国の社会保障制度の沿革を踏まえ、今日の国民皆保険・皆年金体制を骨格とする社会保障の仕組みを知るとともに、安定的な社会保障制度の構築について理解を深める。						
授業の目的・ねらい	① 社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。 ② 現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。 ③ 社会保障制度の財政について理解する。 ④ 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 ⑤ 社会保障制度の体系と概要について理解する。 ⑥ 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。			授業全体の内容と概要	① 現代社会における社会保障制度の現状(少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。) ② 社会保障の概念や対象及びその理念 ③ 社会保障と財政 ④ 社会保険と社会扶助の関係 ⑤ 公的保険制度と民間保険制度の関係 ⑥ 社会保障制度の体系 ⑦ 諸外国における社会保障制度	
具体的授業内容	①人口動態の変化(少子高齢化、人口減少社会) ②経済環境の変化(低成長社会と社会保障の持続可能性) ③労働環境の変化(正規雇用と非正規雇用、労働関係法規(男女雇用機会均等法・障害者雇用促進法)、ワーク・ライフ・バランス) ④社会保障の概念と範囲 ⑤社会保障の役割と意義(セーフティネット) ⑥社会保障の理念 ⑦社会保障の対象 ⑧社会保障制度の展開(社会保障制度の歴史的変遷) ⑨社会保障の財源(一般会計、地方経費、社会保険料、利用者負担、財政調整) ⑩社会保障給付費(内訳、動向) ⑪国民負担率 ⑫社会保障と経済 ⑬社会保険の概念と範囲 ⑭社会扶助の概念と範囲 ⑮公的保険と民間保険の現状(公的保険と民間保険の主な種類、公的保険と民間保険の違い) ⑯医療保険制度等の概要(制度の目的・対象・給付内容・財源構成、公費負担医療) ⑰介護保険制度の概要(制度の目的・対象・給付内容・財源構成) ⑱年金保険制度の概要(制度の目的・対象・給付内容・財源構成) ⑲労災保険制度と雇用保険制度の概要(制度の目的・対象・給付内容・財源構成) ⑳生活保護制度の概要(制度の目的・対象・給付内容・財源構成) ㉑社会手当制度の概要(制度の目的・対象・給付内容・財源構成) ㉒社会福祉制度の概要(制度の目的・対象・給付内容・財源構成) ㉓諸外国における社会保障制度の概要(先進諸国の社会保障制度の歴史と概要) ㉔社会保障制度の国際比較(高齢化と社会保障の給付規模、社会保障給付費の内訳)					
テキスト	書籍名		著者	出版社	出版年	ISBN
	新・社会福祉士シリーズ 12 社会保障 <第 2 版>		福祉臨床シリーズ編集委員会編 阿部裕二責任編集・熊沢由美責任編集	弘文堂	2025 年	9784335612299
レポート課題	レポート課題①	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。				
		社会保障の役割について簡潔に説明しなさい。				
		レポート作成上の注意点	教科書を丸写ししないように記載してください。			
		レポート作成のための参考文献	特になし			

レポート課題	レポート課題②	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。	
		年金保険の役割と課題について簡潔に説明しなさい。	
		レポート作成上の注意点	教科書を丸写ししないように記載してください。
		レポート作成のための参考文献	特になし
評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価		
	レポート課題	スクーリング	試験
	2本	無	有

高齢者福祉			担当教員	櫻井 美帆子	
高齢者の生活および加齢に伴う生活課題と高齢者福祉に関する理解を深め、ソーシャルワーク実践において活用できる諸制度やサービスの知識及び利用方法について理解をする。					
授業の目的・ねらい	①高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。 ③高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。		授業全体の内容と概要	①高齢者の定義と特性 ②高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ③高齢者福祉の歴史 ④高齢者に対する法制度 ⑤高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割 ⑥高齢者と家族等に対する支援の実際	
具体的授業内容	①高齢者の定義 ②高齢者の特性(社会的理解、身体的理解、精神的理解) ③高齢者の生活実態(住居、所得、世帯、雇用、就労、介護需要、介護予防) ④高齢者を取り巻く社会環境(独居、老老介護、ダブルケア、8050 問題、高齢者虐待、介護者の離職) ⑤高齢者福祉の理念(人権の尊重、尊厳の保持、老人福祉法、介護保険法における理念) ⑥高齢者観の変遷(敬老思想、エイジズム、社会的弱者、アクティブエイジング) ⑦高齢者福祉制度の発展過程 ⑧介護保険法(介護保険法と介護保険制度の概要、介護報酬の概要、介護保険制度における組織及び団体の役割、保険者と被保険者、保険料、要介護認定の仕組みとプロセス、居宅サービス、施設サービスの種類) ⑨老人福祉法(老人福祉法の概要、老人福祉法に基づく措置) ⑩高齢者の医療の確保に関する法律(高齢者の医療の確保に関する法律の概要) ⑪高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律(高齢者虐待防止法)(高齢者虐待防止法の概要、高齢者虐待の未然防止、通報義務、早期発見) ⑫高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー法)(バリアフリー法の概要、施設設置管理者等の責務) ⑬高齢者の居住の安定確保に関する法律(高齢者住まい法)(高齢者住まい法の概要) ⑭高年齢者等の雇用の安定等に関する法律(高年齢者雇用安定法)(高年齢者雇用安定法の概要) ⑮育児・介護休業法(育児・介護休業法の概要) ⑯高齢者と家族等の支援における関係機関の役割(国、都道府県、市町村、指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会、地域包括支援センター、ハローワーク、シルバー人材センター) ⑰関連する専門職等の役割(介護福祉士、医師、看護師、理学療法士、作業療法士 等、介護支援専門員、訪問介護員、介護職員、福祉用具専門相談員 等、認知症サポーター、介護相談員、家族、住民、ボランティア 等) ⑱高齢者領域における社会福祉士の役割 ⑲高齢者と家族等に対する支援の実際(多職種連携を含む)(高齢者、家族の就労に対する支援、地域包括ケアシステムにおける認知症高齢者支援、介護予防における支援)				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 社会福祉士養成講座2 高齢者福祉 第2版	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2025 年	9784824301543
レポート課題	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。				
	第2次世界大戦後の高齢者福祉の変遷について、社会の変化を踏まえながら 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。				
	レポート作成上の注意点	レポートなので、年表で提出した場合は再提出とする。 課題に従い、自身の考えも記述すること。			
	レポート作成のための参考文献	特になし			
評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング		試験	
	1本	無		有	

障害者福祉			担当教員	畠山 明子	
ノーマライゼーションやソーシャルインクルージョン、エンパワメント、地域自立生活の実現などの社会福祉の理念は、障害者福祉の実践が出発点となっている。本科目は、障害者の実態と障害者福祉に関わる制度の変遷、障害者総合支援法をはじめとする障害者福祉施策の全体像を理解するとともに、障害者福祉におけるソーシャルワーク実践をおこなう上で求められる知識の習得・定着を図ることを目的とする。					
授業の目的・ねらい	①障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。 ③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。	授業全体の内容と概要	①障害概念と特性 ②障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ③障害者福祉の歴史 ④障害者に対する法制度 ⑤障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割 ⑥障害者と家族等に対する支援の実際		
具体的授業内容	①国際生活機能分類(ICF)(ICIDH からICF へ、ICF の構造) ②障害者の定義と特性(身体障害(肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、内部障害、難病等)、知的障害、精神障害、発達障害) ③障害者の生活実態(地域移行、居住、就学、就労、高齢化、介護需要、障害者の芸術、スポーツ) ④障害者を取り巻く社会環境(バリアフリー、コンフリクト、障害者虐待、親亡き後問題、きょうだいへの支援) ⑤障害者福祉の理念(ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン) ⑥障害観の変遷(偏見と差別、障害者の権利条約の批准の経緯、障害者基本法の変遷) ⑦障害者処遇の変遷(明治以前の障害者の処遇、明治以降の障害者の処遇、戦後の障害者の処遇) ⑧障害者の権利に関する条約(障害者権利条約)と障害者基本法(障害者権利条約の概要、障害者基本法の概要) ⑨5障害者福祉制度の発展過程 ⑩障害者総合支援法(障害者総合支援法の概要、障害福祉サービス及び相談支援、障害支援区分及び支給決定、自立支援医療、補装具、地域生活支援事業、障害福祉計画) ⑪身体障害者福祉法(身体障害者福祉法の概要、身体障害者手帳、身体障害者福祉法に基づく措置) ⑫知的障害者福祉法(知的障害者福祉法の概要、療育手帳、知的障害者福祉法に基づく措置) ⑬精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)(精神保健福祉法の概要、精神障害者保健福祉手帳、精神保健福祉法における入院形態、精神科病院における処遇) ⑭児童福祉法(児童福祉法における障害児支援の概要、発達支援、家族支援、地域支援) ⑮発達障害者支援法(発達障害者支援法の概要、発達障害者支援センターの役割) ⑯障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律(障害者虐待防止法)(障害者虐待防止法の概要、障害者虐待の未然防止、通報義務、早期発見) ⑰障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)(障害者差別解消法の概要、障害を理由とする差別を解消するための措置(合理的な配慮)) ⑱高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー法)(バリアフリー法の概要、施設設置管理者等の責務) ⑲障害者の雇用の促進等に関する法律(障害者雇用促進法)(障害者雇用促進法の概要、事業主の責務、法定雇用率) ⑳国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律(障害者優先調達推進法)(障害者優先調達推進法の概要、障害者就労施設) ㉑障害者と家族等の支援における関係機関の役割(国、都道府県、市町村、障害者に対する法制度に基づく施設、事業所、特別支援学校、ハローワーク) ㉒関連する専門職等の役割(医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士 等、相談支援専門員、サービス管理責任者、居宅介護従事者 等、ピアサポーター、養護教諭、スクールソーシャルワーカー、家族、住民、ボランティア 等) ㉓障害領域における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割 ㉔障害者と家族等に対する支援の実際(多職種連携を含む)(地域相談支援、就労支援、居住支援)				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉 第2版	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2025 年	9784824301512

レポート課題	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。		
	相談支援専門員の業務内容と社会福祉専門職が多職種連携の中で果たす役割について説明しなさい。		
	レポート作成上の注意点	特になし	
	レポート作成のための参考文献	・山村りつ(2019)『入門障害者政策』ミネルヴァ書房	
評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価		
	レポート課題	スクーリング	試験
	1本	無	有

児童・家庭福祉		担当教員	杉本 大輔
児童・家庭福祉の歴史、それを取り巻く社会環境の変化、支援の基盤とその課題、を学習したうえで、児童・家庭福祉にかかわるソーシャルワーク実践事例を参照し、児童・家庭福祉における諸課題の実践的かつ効果的な解決方法を検証し、理解する。			
授業の目的・ねらい	①児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。 ②児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解する。 ③児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。 ④児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。 ⑤児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。	授業全体の内容と概要	①児童・家庭の定義と権利 ②児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ③児童・家庭福祉の歴史 ④児童・家庭に対する法制度 ⑤児童・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割 ⑥児童・家庭に対する支援の実際
具体的授業内容	①児童・家庭の定義(児童の定義、家庭の定義、児童と家庭の関係) ②児童の権利(児童憲章、児童権利宣言、児童の権利に関する条約) ③児童・家庭の生活実態(ライフサイクル、家族形態、子育て(出産、育児、保育、家事)、住居、就労、経済、教育、課外活動、遊び) ④児童・家庭を取り巻く社会環境(いじめ、児童虐待、ひとり親家庭、家庭内DV、社会的養護) ⑤児童福祉の理念(健全育成、児童の権利、最善の利益) ⑥児童観の変遷(保護の対象としての児童、権利の主体としての児童) ⑦児童・家庭福祉制度の発展過程(児童福祉法制定、措置と契約、最善の利益) ⑧児童福祉法(児童福祉法の概要、児童相談所、児童福祉施設の種類、里親制度、障害児支援、児童福祉制度に係る財源、児童福祉サービスの最近の動向) ⑨児童虐待の防止等に関する法律(児童虐待の防止等に関する法律の概要、児童虐待の定義、虐待予防の取組、虐待発見時の対応) ⑩配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)(DV防止法の概要、DV防止法の目的、DVの定義、家庭内暴力発見時の対応) ⑪母子及び父子並びに寡婦福祉法(母子及び父子並びに寡婦福祉法の概要、母子及び寡婦福祉法の目的、母子寡婦福祉資金、母子福祉施設、母子寡婦福祉制度に係る財源、母子寡婦福祉サービスの最近の動向) ⑫母子保健法(母子保健法の概要、母子保健法の目的、母子健康手帳、養育医療の種類、母子保健制度に係る財源、母子保健サービスの最近の動向) ⑬児童手当法(児童手当法の概要、児童手当の種類、児童手当に係る財源、児童手当制度の最近の動向) ⑭児童扶養手当法(児童扶養手当法の概要、児童扶養手当の種類、児童扶養手当に係る財源、児童扶養手当制度の最近の動向) ⑮特別児童扶養手当等の支給に関する法律(特別児童扶養手当法)(特別児童扶養手当法の概要、特別児童扶養手当の種類、特別児童扶養手当に係る財源、特別児童扶養手当制度の最近の動向) ⑯次世代育成支援対策推進法(次世代育成支援対策推進基本法の概要) ⑰少子化社会対策基本法(少子化対策基本法の概要) ⑱売春防止法(売春防止法の概要、婦人相談所、婦人保護施設、婦人相談員) ⑲子ども・子育て支援法(子ども・子育て支援法の概要) ⑳就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律(就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の概要) ㉑子どもの貧困対策の推進に関する法律(子どもの貧困対策の推進に関する法律の概要) ㉒子ども・若者育成支援推進法(子ども・若者育成支援推進法の概要) ㉓いじめ防止対策推進法(いじめ防止対策推進法の概要) ㉔児童や家庭に対する支援における公私の役割関係(行政の責務、公私の役割関係) ㉕国、都道府県、市町村の役割(国の役割、都道府県の役割、市町村の役割) ㉖児童相談所の役割(児童相談所の組織、児童相談所の業務、市町村及び他の機関との連携) ㉗その他の児童や家庭(女性、若者を含む)に対する支援における組織・団体の役割(児童福祉施設、家庭裁判所、警察、婦人相談所、配偶者暴力相談支援センター、婦人保護施設、子ども家庭総合支援拠点、子ども・若者総合相談センター、子育て世代包括支援センター、地域若者サポートステーション)		

具体的授業内容	⑳関連する専門職等の役割(保育士、医師、歯科医師、保健師、看護師、助産師、理学療法士、作業療法士、栄養士、弁護士 等、児童福祉司、児童心理司、家庭児童福祉主事、児童指導員、母子支援員等、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー 等、民生委員、児童委員、主任児童委員、家族、住民、ボランティア 等)				
	㉑社会福祉士の役割				
テキスト	㉒支援の実際(多職種連携を含む)(児童相談所における支援、要保護児童対策地域協議会における支援、児童虐待防止にむけた支援、社会的養護を必要とする児童に対する支援、障害児に対する支援、ひとり親家庭に対する支援、児童と家庭に対する就労支援、子どもの貧困に対する支援、女性、若者への支援、子ども・子育て妊産婦への支援)				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 社会福祉士養成講座3 児童・家庭福祉 第2版	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2025 年	9784824301550
レポート課題	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。				
	子ども家庭を取り巻く現代社会の社会環境の変化を記述し、それらが子育てに与えた影響をレポートすること。				
	レポート作成上の注意点	具体的かつ詳細な記述を心掛けること			
評価方法	レポート作成のための参考文献	特になし			
	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング		試験	
	1本	無		有	

貧困に対する支援			担当教員	上原 正希	
貧困の実態と、それを生み出す原因となった社会情勢と福祉制度の変遷を把握する。そのうえで、生活保護制度の仕組みと生活困窮者に対する自立支援のあり方について学び、併せて最近の保護動向から今後の課題について理解するとともに、都道府県、市町村、各機関の役割とそこに働くソーシャルワーカーの特性を把握し、低所得者に対する効果的なソーシャルワーク支援を構築する視点を理解する。					
授業の目的・ねらい	①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。 ③貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。		授業全体の内容と概要	①貧困の概念 ②貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ③貧困の歴史 ④貧困に対する法制度 ⑤貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 ⑥貧困に対する支援の実際	
具体的授業内容	①貧困の概念(絶対的貧困、相対的貧困、社会的排除、社会的孤立 等) ②公的扶助の意義と範囲(公的扶助の意義(生存権、セーフティーネット、ナショナルミニマム)、公的扶助の範囲(狭義、広義)) ③貧困状態にある人の生活実態(健康、居住、就労、教育、社会関係資本) ④貧困状態にある人を取り巻く社会環境(経済構造の変化、家族、地域の変化、格差の拡大、社会的孤立) ⑤貧困状態にある人に対する福祉の理念(人権の尊重、尊厳の保持、貧困、格差、差別の解消) ⑥貧困観の変遷(スティグマ、貧困の測定、貧困の発見) ⑦貧困に対する制度の発展過程(救貧制度(日本、諸外国)、生活保護法、ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法、子どもの貧困対策の推進に関する法律、生活困窮者自立支援法) ⑧生活保護法(生活保護法の原理原則と概要、生活保護制度の動向、最低生活費と生活保護基準、福祉事務所の機能と役割、相談支援の流れ、自立支援、就労支援の考え方と自立支援プログラム、生活保護施設の役割) ⑨生活困窮者自立支援法(生活困窮者自立支援法の理念と概要、生活困窮者自立支援制度の動向、自立相談支援事業と任意事業、生活困窮者自立支援制度における組織と実施体制、相談支援の流れ) ⑩低所得者対策(生活福祉資金貸付制度、無料低額診療事業、無料低額宿泊所、求職者支援制度、法律扶助、低所得者への住宅政策と住居支援) ⑪ホームレス対策(ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法の概要、ホームレスの考え方と動向、ホームレス支援施策) ⑫貧困に対する支援における公私の役割関係(行政の責務、公私の役割関係) ⑬国、都道府県、市町村の役割(国の役割、都道府県の役割、市町村の役割) ⑭福祉事務所の役割(福祉事務所の組織、福祉事務所の業務) ⑮自立相談支援機関の役割(自立相談支援機関の組織、自立相談支援機関の業務) ⑯その他の貧困に対する支援における関係機関の役割(社会福祉協議会、ハローワーク、地域若者サポートステーション、民間支援団体 等) ⑰関連する専門職等の役割(精神保健福祉士、医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士 等、介護支援専門員、サービス管理責任者 等、ハローワーク就職支援ナビゲーター 等、教諭、スクールソーシャルワーカー 等、弁護士、保護観察官、保護司 等、民生委員、児童委員、主任児童委員、家族、住民、ボランティア 等) ⑱社会福祉士の役割 ⑲貧困に対する支援の実際(多職種連携を含む)(生活保護制度及び生活保護施設における自立支援、就労支援、居住支援、生活困窮者自立支援制度における自立支援、就労支援、居住支援、生活福祉資金貸付を通じた自立支援、多機関及び多職種、住民、企業等との連携による地域づくりや参加の場づくり)				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	新・社会福祉士シリーズ 16 貧困に対する支援	福祉臨床シリーズ編集委員会編 伊藤秀一責任編集	弘文堂	2022 年	9784335612213
レポート課題	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。 生活困窮者自立支援法の対象者や法的な役割について記載しなさい。				
	レポート作成上の注意点	教科書を丸写ししないように記載してください。			
	レポート作成のための参考文献	特になし			
評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング		試験	
	1本	無		有	

保健医療と福祉			担当教員	宮崎 剛司		
わが国の保健医療介護など社会保障制度見直しに伴い、患者や家族からの様々な福祉ニーズに対応すべく福祉職への期待は大きい。診療報酬を含む医療保険制度や保健医療サービスについて知識を習得するとともに実践における関係多職種との連携・協働の理解を図り、柔軟に応えられる力を養う。						
授業の目的・ねらい	①ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。 ②保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。 ③保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解する。 ④保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。			授業全体の内容と概要	①保健医療の動向 ②保健医療に係る政策・制度・サービスの概要 ③保健医療に係る倫理 ④保健医療領域における専門職の役割と連携 ⑤保健医療領域における支援の実際	
具体的授業内容	①疾病構造の変化（感染症の減少・生活習慣病の増加） ②医療施設から在宅医療へ（社会的入院、在宅医療の役割と課題） ③保健医療における福祉的課題（依存症、認知症、自殺企図、虐待防止） ④医療保険制度の概要（医療サービス、医療費の自己負担や保険料の減免制度、高額療養費制度、無料低額診療事業、労災保険、傷病手当金、特定疾患医療費助成制度） ⑤診療報酬制度の概要（診療報酬制度の体系） ⑥医療施設の概要（病院（特定機能病院、地域医療支援病院 等）、診療所、病院や病床の機能分化） ⑦保健医療対策の概要（保健所の役割、地域医療の指針（医療計画）、5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）、5事業（救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療）、薬剤耐性（AMR）対策） ⑧自己決定権の尊重（インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、意思決定支援、アドバンスケアプランニング） ⑨保健医療に係る倫理（医療倫理の4原則） ⑩倫理的課題（高度生殖医療、出生前診断、脳死と臓器移植、尊厳死、身体抑制） ⑪保健医療領域における専門職（医師、歯科医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士 等、介護福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員、居宅介護従事者 等） ⑫保健医療領域における連携・協働（院内連携、地域医療連携（病診連携、病病連携）、地域包括ケアシステムにおける連携） ⑬保健医療領域における社会福祉士の役割（医療ソーシャルワーカーの業務指針） ⑭保健医療領域における支援の実際（多職種連携を含む。）（疾病及びそのリスクがある人の理解、入院中・退院時の支援、在宅医療における支援、終末期ケア及び認知症ケアにおける支援、救急・災害現場における支援、家族に対する支援）					
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
	最新 社会福祉士養成講座5 保健医療と福祉 第2版	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2025 年	9784824301567	
レポート課題	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。					
	わが国の医療保険制度の特徴と社会福祉士（精神保健福祉士）の役割について、医療ソーシャルワーカー業務指針を参考にレポートしてください。					
	レポート作成上の注意点	・今後の医療・介護サービスの制度改革を想定する ・テキスト以外に活用した文献を明記				
評価方法	レポート作成のための参考文献	・北島政樹【編】（2013）『医療福祉をつなぐ関連職種連携』南江堂				
	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価					
	レポート課題	スクーリング			試験	
	1本	無			有	

権利擁護を支える法制度		担当教員	大島 康雄		
相談援助活動における権利擁護の法的根拠を日本国憲法、民法、行政法との関わりで把握し、権利擁護の意味を上記法制度との関連において理解する。その上で、相談援助業務において必要となる成年後見制度等の仕組みと権利擁護活動の実際を理解するとともに、社会福祉士として必要な権利擁護の視点を養う。					
授業の目的・ねらい	①法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。 ②権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。 ③権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。 ④権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。 ⑤ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。	授業全体の内容と概要	①法の基礎 ②ソーシャルワークと法の関わり ③権利擁護の意義と支える仕組み ④権利擁護活動で直面しうる法的諸問題 ⑤権利擁護に関わる組織、団体、専門職 ⑥成年後見制度		
具体的授業内容	①法と規範(法の規範との関係、法と道德の関係) ②法の体系、種類、機能(成文法と不文法、公法と私法、実体法と手続法、法規範の特質と機能) ③法律の基礎知識、法の解釈(法律条文の構造、法解釈の基準と方法) ④裁判制度、判例を学ぶ意義(裁判の種類、判決の種類、判例とは) ⑤憲法(憲法の概要(最高法規性、日本国憲法の基本原理)、基本的人権(基本的人権と公共の福祉、平等性、自由権、社会権)、幸福追求権) ⑥民法(民法総則(権利の主体・客体、権利の変動、無効と取消し)、契約(売買、賃貸借等)、不法行為(不法行為の要件、不法行為の効果(損害賠償))、親族(婚姻、離婚、親権、扶養、成年後見制度)、遺産管理) ⑦行政法(行政組織(国、地方公共団体の組織、公務員)、行政の行為形式(行政処分)、行政上の義務履行確保(行政強制、行政罰)、行政訴訟制度(行政不服申立て、行政訴訟)、国家の責任(国家賠償)、地方自治法(国と自治体の関係)) ⑧権利擁護の意義 ⑨福祉サービスの適切な利用(運営適正化委員会、国民健康保険団体連合会) ⑩苦情解決の仕組み(事業者による苦情解決、自治体等による苦情解決) ⑪虐待防止法の概要(高齢者虐待防止法、児童虐待防止法、障害者虐待防止法) ⑫差別禁止法の概要(障害者差別解消法) ⑬意思決定支援ガイドライン(障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン、人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン、認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン) ⑭インフォームド・コンセント(法的概念としてのインフォームド・コンセント、インフォームド・コンセントに関する判例) ⑮秘密・プライバシー・個人情報(秘密、プライバシー、個人情報、情報共有) ⑯権利擁護活動と社会の安全(守秘義務、通報、警告義務) ⑰権利擁護に関わる組織、団体の役割(家庭裁判所、法務局、市町村、社会福祉協議会、権利擁護支援の地域連携ネットワークの中核機関、弁護士、司法書士) ⑱成年後見の概要(法定後見、任意後見、専門職後見) ⑲後見の概要(成年被後見人の行為能力、成年後見人の役割) ⑳保佐の概要(被保佐人の行為能力、保佐人の役割) ㉑補助の概要(補助人の役割) ㉒任意後見の概要 ㉓成年後見制度の最近の動向(利用動向、成年後見制度利用促進法、成年後見制度利用促進基本計画、意思決定支援) ㉔成年後見制度利用支援事業 ㉕日常生活自立支援事業(日常生活自立支援事業の動向、専門員の役割、生活支援員の役割)				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度 第2版	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2025 年	9784824301529

レポート課題	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。		
	「アドボカシー」「エンパワメント」について権利擁護の観点から説明しなさい。		
	レポート作成上の注意点	公民権運動やピープルファーストなどの歴史的背景を踏まえて説明すること (テキスト第 3 章「権利擁護の意義と支える仕組み」参照)。	
	レポート作成のための参考文献	特になし	
評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価		
	レポート課題	スクーリング	試験
	1本	無	有

刑事司法と福祉			担当教員		西野 克俊	
刑事司法、更生保護、医療観察法等の司法領域の制度や関係機関について理解を深め、司法領域におけるソーシャルワーカーの役割を理解する。						
授業の目的・ねらい	①刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。 ②刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解する。 ③刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。			授業全体の内容と概要	①刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境 ②刑事司法 ③少年司法 ④更生保護制度 ⑤医療観察制度 ⑥犯罪被害者支援	
具体的授業内容	①刑事司法における近年の動向（犯罪の動向（認知件数と発生率、再犯率等）） ②刑事司法を取り巻く社会環境（高齢者・障害者等の社会復帰支援、再犯の防止等の推進に関する法律（再犯防止推進法）、就労支援（刑務所出所者等総合的就労支援対策）、薬物依存者の再犯防止・回復支援、修復的司法、農福連携 等） ③社会福祉士及び精神保健福祉士の役割（検察庁や矯正施設、保護観察所、地域生活定着支援センター、精神保健福祉センター等における役割） ④刑法（刑法の基本原則、犯罪の成立要件と責任能力、刑罰） ⑤刑事事件の手続き、処遇（刑事手続、刑事施設内での処遇） ⑥少年法（少年法の基本原則、児童福祉法との関係） ⑦少年事件の手続き、処遇（非行少年に対する手続、少年鑑別所・少年院での処遇、児童福祉法による措置） ⑧制度の概要（意義、歴史、更生保護法制、更生保護施設） ⑨生活環境の調整（目的、機能、手続、関係機関との連携、特別調整） ⑩仮釈放等（仮釈放と仮退院、意義、許可基準、手続き） ⑪保護観察（目的、方法、対象、内容、運用状況） ⑫更生緊急保護（目的、対象、期間、内容、手続き） ⑬団体・専門職等の役割と連携（福祉事務所、児童相談所、保護観察官、保護司、更生保護施設、民間協力者（更生保護女性会、BBS 会、協力雇用主等）、法テラス、公共職業安定所） ⑭制度の概要（目的、制度導入の背景、対象者） ⑮審判・処遇の流れと内容（審判の手続き、処遇の流れ、入院処遇の概要、通院処遇の概要、精神保健観察） ⑯関係機関・専門職等の役割と連携（裁判所、裁判官、精神保健審判員、精神保健参与員、指定医療機関（指定入院医療機関、指定通院医療機関）、社会復帰調整官、保護観察所、都道府県・市町村、障害福祉サービス事業所） ⑰犯罪被害者の法的地位（犯罪被害者の地位の変遷） ⑱犯罪被害者支援に関する法（犯罪被害者等基本法、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律、ストーカー行為等の規制等に関する法律） ⑲犯罪被害者支援に関する制度（被害者等通知制度、意見等聴取制度、心情等伝達制度、相談・支援） ⑳団体・専門職等の役割と連携（被害者支援員制度、被害者ホットライン、犯罪被害相談窓口、被害者支援センター）					
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
	刑事司法と福祉 第2版 最新社会・精神保健福祉士養成講座10	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2025 年	9784824301536	
レポート課題	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。 教科書を参照し、司法領域におけるソーシャルワーカーの必要性をまとめ、自身の考えを 1,000 文字～1,200 文字でまとめなさい。					
	レポート作成上の注意点	課題に従い、教科書の内容をまとめるだけでなく、自身の考えも記載すること。				
	レポート作成のための参考文献	特になし				
評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価					
	レポート課題	スクーリング			試験	
	1本	無			有	

ソーシャルワーク演習		担当教員	杉本 大輔・山岸 学志・谷越 勇輔
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークに係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力の涵養を目的とする。 本演習では、相談援助の中でも基本的なコミュニケーション技法・面接技法(記録)・グループダイナミクスなどの向上に重点を置き、ソーシャルワークの習得と事例を用いた実践的なロールプレイングを行う。			
授業の目的・ねらい	①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。 ③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。 ④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。		
授業全体の内容と概要	個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行うこと。 ①自己覚知 ・自己理解と他者理解 ②基本的なコミュニケーション技術 ・言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等) ・非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り等) ③基本的な面接技術 ・面接の構造化 ・場の設定(面接室、生活場面、自宅等) ・ツールの活用(電話、e-mail 等) ④ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、次に掲げる具体的なソーシャルワークの場面と過程を想定した実技指導を行うこと。 ・ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価 ・アフターケア ⑤ソーシャルワークの記録 ・支援経過の把握と管理 ⑥グループダイナミクスの活用 ・グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー) ・グループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期) ⑦プレゼンテーション技術 ・個人プレゼンテーション ・グループプレゼンテーション		
具体的授業内容	・利用者理解と自己覚知 ・基本的なコミュニケーション技術の習得、基本的な面接技術の習得 ・個別援助とコミュニケーション技術の習得(インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果の測定、終結とアフターケア) ・介護体験の実際(視聴覚授業、車椅子介助体験、ベッドサイド介助体験) ・障害者移動支援体験の実際(視聴覚授業、ガイドヘルプ体験、バリア体験) ・相談面接の実際(視聴覚授業、ロールプレイ、アウトリーチ、マッピング、ネットワーキング、インターベンション、社会資源の活用と調整、開発、評価・終結) ・演習での議論を通じてグループダイナミクススキル構築 ・演習の発表を通してプレゼンテーションスキル構築		

テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	新・社会福祉士シリーズ ソーシャルワーク演習 〔共通〕	福祉臨床シリーズ編集委員会	弘文堂	2024 年	9784335612251
レポート課題	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。				
	社会福祉士養成におけるカリキュラムに、演習科目がある理由を記載しなさい。				
	レポート作成上の注意点	教科書を丸写ししないこと。			
	レポート作成のための参考文献	特になし			
評価方法	レポート及びスクーリング授業への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング		試験	
	1 本	9時間		無	

ソーシャルワーク演習(専門)	担当教員	杉本 大輔・清水 孝修・新沼 右文 向山 篤・吉田 忠司
ソーシャルワーク演習の学びをベースに、社会福祉士に求められるソーシャルワークに係る知識と技術について、個別・集団指導を通して、具体的な事例をもとに、ソーシャルワークの視点および地域における支援の在り方について専門的に学ぶ。		
授業の目的・ねらい	①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。 ②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。 ③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。 ⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 ⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 ⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。	
授業全体の内容と概要	<ソーシャルワーク実習前に行うこと> 個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行うこと。 ①次に掲げる具体的な事例等(集団に対する事例含む。)を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得すること。 ・虐待(児童・障害者・高齢者等) ・ひきこもり ・貧困 ・認知症 ・終末期ケア ・災害時 ・その他の危機状態にある事例(権利擁護活動を含む) ②①に掲げた事例等を題材として、次に掲げる具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技指導を行うこと。 ・ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の集結と事後評価 ・アフターケア ③②の実技指導に当たっては、次に掲げる内容を含めること。 ・アウトリーチ ・チームアプローチ ・ネットワーキング ・コーディネート ・ネゴシエーション ・ファシリテーション ・プレゼンテーション ・ソーシャルアクション ④地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、次に掲げる事項について実技指導を行うこと。 ・地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握 ・地域アセスメント ・地域福祉の計画 ・組織化 ・社会資源の活用・調整・開発 ・サービスの評価	

	＜ソーシャルワーク実習後に行うこと＞ ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行うこと。 ① 事例研究、事例検討 ② スーパービジョン				
具体的授業内容	具体的な事例等を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。 ・事例研究：虐待（児童・障害者・高齢者等）、ひきこもり、貧困、認知症、終末期ケア、災害時 具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技指導 ・課題別相談事例について援助の実際 （社会的排除等について、虐待（児童・高齢者）、家庭内暴力(DV)について、低所得者について、ホームレスについて） 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、次に掲げる事項について実技指導 ・チームワークの重要性 ・高齢者の生活支援、障害者の生活支援、児童の生活支援、家族支援、地域援助				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	新・社会福祉士シリーズ ソーシャルワーク演習（社福専門）	福祉臨床シリーズ編集委員会	弘文堂	2024 年	9784335612268
レポート課題	レポート課題①	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。			
		高齢者虐待への対応として、どのようなソーシャルワークができるか記載しなさい。			
		レポート作成上の注意点	教科書を丸写ししないこと。		
		レポート作成のための参考文献	特になし		
	レポート課題②	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。			
		ひきこもりへの対応として、どのようなソーシャルワークができるか記載しなさい。			
		レポート作成上の注意点	教科書を丸写ししないこと。		
		レポート作成のための参考文献	特になし		
	レポート課題③	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。			
		認知症高齢者への対応として、どのようなソーシャルワークができるか記載しなさい。			
		レポート作成上の注意点	教科書を丸写ししないこと。		
		レポート作成のための参考文献	特になし		
	レポート課題④	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。			
		終末期への対応として、どのようなソーシャルワークができるか記載しなさい。			
		レポート作成上の注意点	教科書を丸写ししないこと。		
		レポート作成のための参考文献	特になし		
評価方法	レポート及びスクーリング授業への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング		試験	
	4本	36時間		無	

ソーシャルワーク実習指導	担当教員	杉本 大輔
将来、社会福祉専門職として働くために、ソーシャルワーク実習の基礎を学びます。 福祉実践に対するイメージをつかむとともに、ソーシャルワーク実習のねらいと事前学習－現場実習－事後学習という実習教育の仕組みを理解します。このような学習を進めながら、実習に向かう自らの姿勢を確認します。		
授業の目的・ねらい	①ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。 ④実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。	
授業全体の内容と概要	次に掲げる事項について個別指導及び集団指導を行うものとする。 ①実習及び実習指導の意義(スーパービジョン含む。) ②多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習 ③実際に実習を行う実習分野(利用者理解含む。)と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 ④実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解 ⑤実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ⑥実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解 ⑦実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 ⑧実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成及び実習後の評価 ⑨巡回指導 ⑩実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ⑪実習の評価及び全体総括会	
具体的授業内容	1. 事前指導 ①施設・機関の利用者の状況を把握する。利用者の抱える問題、その問題の背景、利用可能な社会資源など ②利用者援助のために必要となる判断の枠組みを理解・習得する。 ③「実習日誌」の基本的な書き方を習得する。 ④ソーシャルワークの根底にある価値に基づき、利用者や現場職員に対する実習生としての態度や姿勢を身に付ける(個人情報保護法の理解を含む)。 ⑤現場実習での課題の作成とその達成方法を考える。 2. 現場実習 ①ソーシャルワーク実践を遂行する上で必要不可欠な「専門知識」「専門援助技術」および「関連知識」の理解を深める。 ②「専門知識」「専門援助技術」および「関連知識」を実際に活用して、ソーシャルワークに必要な資質・能力・技術を習得する。 ③職業倫理を身に付け、福祉専門職としての自覚に基づいた行動が出来るようにする。 ④具体的な体験や援助活動を専門的援助活動として概念化・理論化し体系立てていくことが出来る能力を涵養する。 ⑤関連分野の専門職との連携の在り方およびその具体的な内容を理解する。 ⑥「気付き」を大切にする。例えば、適切な援助には何が必要かということに気付くこと。 3. 事後指導 ①現場実習終了後、制度の理解とソーシャルワーク実践の理解を整理して、理論と実践を結び付けて考えられる能力を伸長する。 ②実習を通して明確化された問題意識を深く追究する。 ③ソーシャルワークのあるべき姿とそのために必要な能力を認識し、自己の客観性(自己覚知)を進めることで自己の課題を明確にする。	

＊実習生が取り組むべき課題

- (1) 職業倫理とソーシャルワーカーの態度・行動との関係を理解すること、並びに価値の実現のために必要となる要素を理解すること。
 - ・専門職としての自覚を持って行動するようになる。
 - ・個人的価値基準で利用者を評価しなくなる。
 - ・利用者の人権を守るということを具体的に説明できるようになる。
 - ・利用者のプライバシーを積極的に守るようになる。
- (2) 利用者ニーズを社会資源との関係で考察評価し援助計画を立てる技術を習得すること。
 - ・人・問題・環境における諸要因の相互関連性を評価する視点とその方法を具体例に適用することができるようになる。
 - ・利用者の問題に関わる諸要因の相互関連性を精査し整理・記録ができるようになる。
 - ・利用者の問題解決のために目標を設定し援助計画を立てることができるようになる。
- (3) 援助過程を通して必要な専門的援助関係を構築し深める技術を習得すること。
 - ・援助に関する利用者との契約の意義を理解するようになる。
 - ・一連の援助過程(インテーク、アセスメント、プランニング、インターベンション、モニタリング、エバリュエーション、終結)の技術を用いることができるようになる。
 - ・関わるという行動が適切にとれるようになる。
 - ・面接の場面構成ができるようになる。
 - ・傾聴技法を適切に用いて共感的理解を示すことにより、援助関係を構築できるようになる。
- (4) 利用者とその関係者(家族、親族、友人など)の問題解決能力を高めると共に社会資源との調整を図る技術を習得すること。
 - ・利用者の態度や行動に変容を促す働きかけができるようになる。
 - ・情報の提供や助言・指導ができるようになる。
 - ・必要な場合、はっきり、かつ冷静に相手の間違いや矛盾を指摘できるようになる。
 - ・必要な場合、媒介、代弁、調停などの機能を果たせることができるようになる。
 - ・様々なアプローチ・技法を用いることが出来るようになる。
- (5) グループ形成およびそのニーズを評価する技術を習得する。
 - ・クラブ活動などを通してグループの特徴やニーズを評価できるようになる。
 - ・利用者が新たなグループをつくることを援助できるようになる。
- (6) グループ活動でのプログラム展開を援助する技術を習得する。
 - ・クラブ活動などで特定プログラムの遂行援助ができるようになる。
 - ・メンバー間の関係調整や葛藤の解決援助ができるようになる。
 - ・行事の企画・立案・実行を部分的であってもできるようになる。
- (7) 地域社会、当該施設・機関の特性を考慮しその組織化を強化・促進する技術を習得する。
 - ・意向調査などのアンケート調査の計画・実施ができるようになる。
 - ・委員会などの組織化や運営方法を学びシミュレーションできるようになる。
- (8) 当該領域において用いられる社会資源の知識とそれを活用・開発する技術を習得する。
 - ・利用可能な社会資源の調査・選択ができるようになる。
 - ・上記の社会資源を活用、既存しない場合は開発提案ができるようになる。
- (9) 当該施設・機関の目的、機能、組織を認識し関係専門職および関係施設・機関との連携をとる技術を習得する。
 - ・実習先施設・機関の目的と機能および他の専門職の役割と業務内容を十分に理解するようになる。
 - ・関係施設・機関の目的と機能およびそこで働く専門職の役割と業務内容を理解するようになる。
 - ・ケアマネジメントやネットワーキングなどの意義とその方法を理解するようになる。
 - ・実習先内部での連携がとれるようになる。
 - ・外部との連携の必要性が認識できるようになる。可能であるならば、この連携がとれるようになる。
- (10) 観察および記録作成の技術を習得する。
 - ・利用者の行動や状態を正確に観察し、その内容と自分の判断および行動を的確に記録できるようになる。
- (11) 自己理解を深め自己の意識や感情をコントロールする術を身に付ける。
 - ・自己の価値観、行動、意識の偏りに気づき、利用者などとの関係においてはそれらをコントロールできるようになる。
- (12) 分野独自の専門的な援助方法を理解する。
 - ・各分野、施設・機関ならではの援助方法や関わり方を認識できるようになる。

書籍名		著者	出版社	出版年	ISBN
新・社会福祉士シリーズ ソーシャルワーク実習・実習指導(社福専 門)		福祉臨床シリーズ編集委員	弘文堂	2023 年	9784335612275
レポート課題	レポート課題①	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。			
		社会福祉士養成におけるカリキュラムに、実習科目がある理由を記載しなさい。			
		レポート作成上の注意点	教科書を丸写ししないこと。		
		レポート作成のための参考文献	・中部学院大学通信教育部【監修】(2021)『ソーシャルワーク実習支援現場の実践事例を通した学び』みらい		
	レポート課題②	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。			
		実習での職場実習・職種実習・ソーシャルワーク実習の違いと学ぶべきことを記載しなさい。			
		レポート作成上の注意点	教科書を丸写ししないこと。		
		レポート作成のための参考文献	・中部学院大学通信教育部【監修】(2021)『ソーシャルワーク実習支援現場の実践事例を通した学び』みらい		
	レポート課題③	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。			
		実習後の振り返りをする意義について記載しなさい。			
		レポート作成上の注意点	教科書を丸写ししないこと。		
		レポート作成のための参考文献	・中部学院大学通信教育部【監修】(2021)『ソーシャルワーク実習支援現場の実践事例を通した学び』みらい		
評価方法	レポート及びスクーリング授業への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング		試験	
	3本	27時間		無	

ソーシャルワーク実習		担当教員	杉本 大輔		
実習に必要なとされる知識・技術を習得し、効果的な実践を行えるようになる。 また、実習時における疑問や課題への対応方法について、実習指導者や巡回教員からのスーパーバイズを受け、ソーシャルワーカーとしての視点を獲得する。					
授業の目的・ねらい	① ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 ② 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。 ③ 生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 ④ 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 ⑤ 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。				
授業全体の内容と概要	社会福祉各領域(高齢者、児童、障害者、地域・行政)の施設・機関など、機能の異なる2カ所以上の実習施設にて、240 時間以上の実習を行い、担当教員の巡回指導と実践現場のスーパーバイザーの指導の下に、地域における多様な福祉ニーズや多職種・多機関協働、社会資源の開発等の実態を学び、社会福祉各領域の実践現場に必要なスキルを獲得する。				
具体的授業内容	実習生は次に掲げる事項について実習指導者による指導を受けるものとする。 ① 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 ② 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成 ③ 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価 ④ 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価 ⑤ 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 ⑥ 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ ⑦ 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 ⑧ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実践(チームマネジメントや人材管理の理解を含む。) ⑨ 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解 ⑩ ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解 ・アウトリーチ ・ネットワーキング ・コーディネーション ・ネゴシエーション ・ファシリテーション ・プレゼンテーション ・ソーシャルアクション ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	ソーシャルワーク実習・実習指導(社会福祉専門)	福祉臨床シリーズ編集委員会	弘文堂	2023 年	9784335612275
注意事項	・実習先と実習指導者の要件について 実習を受け入れできる場所は、その実習先に社会福祉士国家資格取得済みで、資格取得後 3 年の相談援助業務経験があり、社会福祉士相談援助実習指導者講習会を修了した方がいる場所になります。また、その実習先については、本学と契約を交わし、厚生労働省に実習先および実習指導者を登録していなければ実習先となることはできませんので、身近な地域に施設があっても実習先にならないことがあるということもご理解ください。				

注 意 事 項	・実習先と実習時期について 実習先と実習時期については、事前にご意見をお聞きし、調整をしますが、上記に記載したように実習先には要件がありますので、実習先は近隣にならない可能性もあること、また実習時期についても、基本は受講生ではなく、実習先からの条件が優先されますことをご理解ください。また自分自身で実習先が確保できる場合は、実習指導教員へお伝えください。 ・実習期間と実習時間について 実習時間は 240 時間以上で、社会福祉各領域（高齢者、児童、障害者、地域・行政）の施設・機関など機能の異なる 2 か所以上の実習施設にて、一般的には、土日を除いた月曜日から金曜日で行います。 仕事の関係上、週末のみでの実習を希望される方がいますが、施設側の指導者が不在ですので困難です。また、分割して実習を希望されても、実習先から指導効果の関係上、受け入れが難しくなりますので、実習に行く受講生については、実習時期は未定でも、早期の段階で実習に行くことなどを職場等と話し合いをしておいてください。 ・その他 まれに、仕事もしているので、とりあえず実習の日数・時間をこなせば良いという考えの受講生がおります。しかし、実習指導者・施設管理者なども、自分の仕事と別に実習生の指導をすることになり、多くの時間を費やすこととなります。また施設利用者の方々も、自分の施設生活などのプライバシーを受講生に対し見せることになり、ストレスが生じます。 自分に対し、どれほどの時間や手間、リスクをかけてくれているかをよく理解し、実習にのぞみましょう。 仕事の都合や自分の精神面など、実習に行くことが不安な場合は、無理して実習に行くのではなく、次年度に行くなど、延期することも考えてください。		
	実習内容の達成度について、実習指導者の評価および自己評価を考慮して総合的に評価		
	レポート課題	スクーリング	試験
評 価 方 法	—	—	—